

研究構想図

学校教育目標

夢と志を持ち、共に高め合う児童の育成

育成したい資質能力

思考力・判断力・表現力

主体性

自らへの自信

郷土愛

研究主題

「分かる」・「できる」を実感する算数科の授業の創造
～自ら学び、考え、深め合うための指導法の工夫を通して～

研究仮説

自ら学び、考え、深め合うための指導法を工夫すれば、児童は、「分かる」「できる」を実感することができるであろう。

算数科

ストラテジーの定着

- ①具体物操作
- ②図化
- ③表・グラフ化
- ④式
- ⑤言語化
- ⑤既習事項の活用

教師の教材分析

- ・児童の考えの推測
- ・解決事例に取り上げ方
- ・誤答の生かし方
- ・本時のねらいに気付かせる発問
(ゆさぶり)

チャレンジタイム

- 反復・文章題
- 複数体制
(個別指導教員配置)

問題場面 課題設定

○出会い

- ・生活に即した問題
- ・視覚的支援による
問題場面の提示
- ・数量関係の把握

○課題把握

- ・既習とのずれ
- ・前時との違い
- ・見通し

自力解決

○自力解決への支援

- ・ヒントカード
- ・学習の足跡

少人数を生かした個別支援

モデル

繰り返し

○視点

- ①共通点・相違点
- ②よりよい考え
- ③規則性・一般化

- ・ペア・グループ
学習
- ・話型の定着
結論先行
明確な根拠

まとめ・適用題

○視点

- ①分かったこと・できるようになったこと
- ②友達の考えについて学んだこと
- ③次にしてみたいこと・疑問

振り返り

家庭学習

ドリル・応用題

「分かる」「できる」
を実感

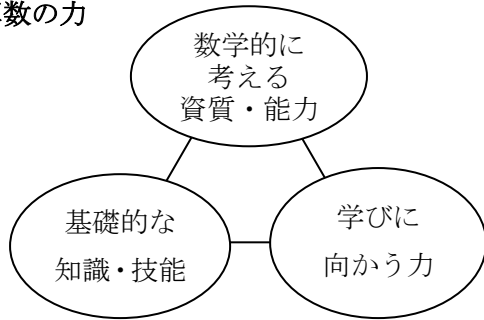
学習基盤となる生活環境

評価

全単元末テスト・標準学力調査・算数アンケート

研究の概要

算数の力



変化の激しいこれからの社会において、一人一人の子供達が自分の可能性を伸ばし、幸福で有意義な人生を送ることができるようにするために、一人一人が自分で考え行動していくことができる個人を育成することが求められている。そのことを踏まえ、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」に加え、「学びに向かう力・人間性等」を教育で育成すべき資質・能力の3つの柱として明示された。算数科においても、計算などの「基礎的な知識・技能」、問題を解決しようとする「学びに向かう力」、問題を解決するための「算数的資質能力」の育成が求められている。

児童の実態

全国学力A問題 75% (全国▼6%)

B問題 42% (全国▼5%)

標準学力調査 (標準スコア)

1年	2年	3年	4年	5年	6年
47.3	53.7	57.4	54.3	52.2	53.5

単元末テスト

知・理 92%

技能 90%

思考 83%

児童アンケート

算数が好き…86.0%

考えを書いたり言ったり 86.9%

算数の授業が分かる…96.3%

学んだことを生かす…85.7%

▼活用のベースとなる基礎的な学力が不十分である。

▼情報の取り出し、説明力に課題が大きく、算数科のストラテジーの育成が不十分である。

【研究仮説】

- ・自ら学び、考え、深め合うための指導法を工夫すれば、児童は、「分かる」「できる」を実感することができるであろう。

【育成させたい資質・能力】

○思考力・判断力・表現力 ○主体性 ○自らへの自信 ○郷土愛

【評価】

全単元末テスト 技能・知識理解 95%以上, 思考力 低 90%, 高 85%以上

標準学力調査 80%以上

算数児童アンケート 肯定的評価 90%以上

- 好き。
- 分かる。
- 考えを図、表、式、言葉などを使って書いている。
- 考えを図、表、式、言葉などを使って説明している。
- 人の考えと自分の考えを比べて聞いている。
- 生活や別の学習で生かしている。